授業づくり研修講座　実践レポート

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　座間市立旭小学校　大矢　俊次

第４学年　総合的な学習の時間「福祉について調べよう」～福祉体験報告文を書いて，伝えよう～

実践のポイント（工夫）

・はじめに絵日記をかかせて，体験内容の記録と情報の整理をさせたこと。

　　←他者に伝えるための工夫を考えながら書く報告文をはじめから書かせることは，子どもたちにとって負担が大きいので，絵日記にすることで負担感を軽くしやすい。

　　←短時間でかけるので，記録と情報の整理がしやすい。

・友だちが書いた文章を評価させる場面を設定したこと。

　　←自分が書いた文章よりも友だちが書いた文章の方が，書き方等の「よさ」を見つけやすい。

　　←他者が書いた文章をたくさん読んだことで，次の作文活動のヒントになる。

・子どもたち自ら選んだ「よい文章」を題材にして，その「よさ」の理由を考えさせたこと。

　　←自ら選択したことで，子どもたちが考えようとする意欲が高まる。

←自分が書いた文章と「よい文章」を比べて確認できるので，文章における「わかりやすい」「伝わりやすい」という大切さが理解しやすい。

・書いて伝える相手を設定したこと。

　　←伝える相手を明確にすることで，「わかりやすい」「伝わりやすい」をより一層意識して書くようになる。

実践内容

第１回の研修で，子どもたちが「書きながら考える，考えながら書く」ことを通して「書けるようになる」ために，ただ書かせるのではなく，書くという学習活動の過程を工夫して指導することが大切であることを学んだ。そこで，これまでの一対一の添削指導だけでなく，子どもたちが書いた文章を題材にして，「よい文章とは何か」や「わかりやすい・伝わりやすい文章を書くための工夫とは何か」を子どもたち同士で話し合わせて考えさせる活動を，書く活動の中に設定した。

まず，福祉体験をした直後に，自由に絵日記をかかせた。

次に，友だち同士で絵日記を読み合い，「体験内容がとてもわかりやすかった」「かいた人の思いや考えがとても伝わってきた」という視点から「よい文章」を選ばせた。

その次に，選ばれた絵日記を取り上げて，どのような書き方をしていたから「わかりやすかったのか」「思いや考えが伝わってきたのか」を話し合わせて考えさせた。子どもたちからの意見を集約して，「わかりやすい」「伝わりやすい」文章に必要なことをみんなで共有した。

最後に，一つ下の学年である３年生にむけて書いて伝えることを確認して，福祉体験報告文を書かせた。

振り返り（成果と課題）

　学習の過程を工夫したことで、子どもたちが「わかりやすく書こう」「相手に伝わりやすく書こう」と意識するようになった。また、書くことに対して意欲が高まった。

　今後は、このような学習を学年はじめから計画的にすすめられるようにしていきたい。